

専念寺通信

八月号 (NO. 132)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

台風到来、大雨の被害、酷暑、きびしい夏がやって参りました。節電の方法やタイミングの難しい今年の夏、皆さま、おかわりなくお過ごしですか？



☆盂蘭盆会

7月13日から15日まで、そしてそれに続く16日から18日までが三連休と、今年は、檀家さまが毎日のようにお墓参りにいらっしゃるお盆でした。全部で109軒の檀家さま、人数にして300名くらいの方とお目にかかることができました。お墓の石がとても熱くなっていて「水をかけたらお湯になりました。」とおっしゃる方、「熱くて石にさわれませんでした。」とおっしゃる方、皆さま、汗をかいてのお参りでした。お孫さんがひとり増え、ふたり増え、今では5人です、と話す方、我が家の孫と同じ年かっこうで、最近はこんなことをするようになった、とちよほど共通の話題を選んで私共を喜ばせてくださるかた、また、バスを利用していつも背筋を伸ばして挨拶なさる檀家さまの年齢を聞いてびっくり、93歳です、と。「寝冷えをしないように、住職ともども気をつけてくださいよ。」と心配していただきました。バイクでいつもいらっしゃる90歳の檀家さまもいて、皆さまのちからとエネルギーに、こちらが励まされる思いです。暑さで供花が長くもたなかったのが心残りでしたが、雨の施餓鬼会、猛暑のお盆、とたいへんな気候にもかかわらず、熱心にお墓参りをされる皆さまのお気持ちの貴重さを楽しみ

じみと感じた今年のお盆でした。

☆ふんばろう東日本支援プロジェクト

お盆の入りの日にいらした檀家さまが、「衣類や電気用品を被災地に送りたいけれど、どこへ持っていったらいいのか分からない。」と話し、それがきっかけで、ちょうど



寺にあったチラシ「ふんばろう東日本」をコピーして『通信』にはさみこませて頂きました。その檀家さまはクリーニング屋さんなのですが、被災地に寄付したいからとお客さんが持って来た衣類のクリーニング代金を受け取らなかった、と話されました。「その料金は、もらえないですよ。」と。私共の寺の檀家さまがこのように心の持ち主であることは、なんと誇らしいことなのでしょう。なんでもないことのように話されるのですが、胸がいっぱいになりました。そして「どこへ持っていったらいいのか近所の人たちが迷っている。」と話されたのです。このかたのひとことがきっかけで、チラシを100枚以上コピーすることを、私共は遅まきながら思いついたのでした。

「ふんばろう東日本」は早稲田大学の若い先生が中心になって、学生をボランティアとして、自分の研究室を使って、被災地から寄せられる「こんなものが不足しています」情報を公開し、「私はそれを送れます。」と返事する人を募ります。このくり返しで、毎日、毎日、必要な

ものを必要な人のところへまく届けることに成功しています。コピーはまだ専念寺にありますので、興味のおありの方は玄関でお申しつけください。近々、専念寺のホームページから、そのホームページへいけるようにできたらと思っています。どんなことでも、できる事からはじめて、そして長く続けていきたいと思っています。とても暑い毎日です。どうぞ皆さまご自愛ください。

平成23年8月1日

大黒

